

ニホンジカ食害防除対策検討会を開催

〔岐阜署：森林技術・支援センター〕 11月25日にケーススタディ（※1）地区の七宗町において、岐阜署、森林技術・支援センター及び岐阜県の共催で、ニホンジカ食害防除対策検討会を開催しました。

各地でニホンジカの食害が深刻化しており、適正な頭数に管理する個体数調整や、造林地へシカを侵入させない、あるいは食害を防止するための防護対策について、国、県、市町村が情報共有を図り、意見交換を行うことにより、各地域でより効果的な対策を行うことが出来るようにする事を目的とするもので、県職員（林業普及指導員等）18名、市町村職員8名、国有林職員12名が参加しました。

午前中の屋内検討会は、岐阜県森林研究所の岡本専門研究員から「ニホンジカ対策の現状と課題について」、岐阜署の松嶋総括地域林政調整官から「国有林におけるニホンジカ対策について」の講義と意見交換を行いました。

午後の現地検討会は参加者を二班に分けて、森林技術・支援センターが設置したシカ対策試験地の現地説明と、くくり罠の実習を行いました。

今後、主伐・再造林を進めるにあたり、ニホンジカ対策は重要であり、低コストで効果が期待できる防除対策や職員捕獲に関する質問が多く出され、有意義な意見交換になりました。

民国連携でニホンジカ対策の検討会を行うのは岐阜県で初めての試みであり、今後もケーススタディ地区の七宗国有林をフィールドとして、民国連携の研修会を積極的に開催していきます。

（※1：国有林の森林総合監理士等が市町村への協力を推進するための事例研究地域）



現地説明の様子